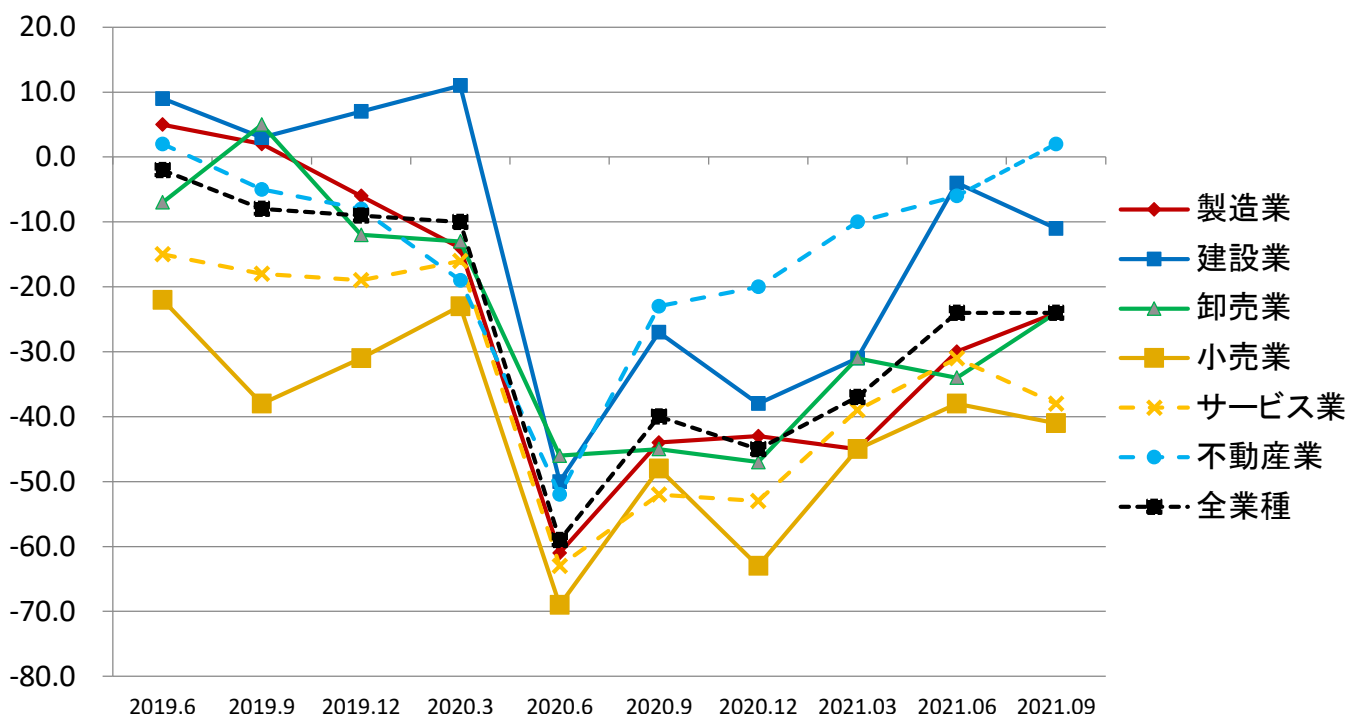


福生市商工会 経営だより

1. 多摩地域の小規模企業業種別業況判断DIの推移



※製造業・建設業は19人以下を、卸売業・小売業・サービス業は4人以下を小規模企業としています。
出典：多摩信用金庫 多摩けいざい No.98

2. 業況判断DIの分析

2021年の9月期は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響が緩和されつつあり、業況は持ち直してきています。特に製造業が6ポイント、卸売業が10ポイント、不動産業8ポイントのプラスになっており、サプライチェーンの上流を中心に回復の兆しが見えます。また、3月期から9月期に限ってみると全ての業種が回復傾向です。一方で、建設業については前期から業況が悪化し7ポイントのマイナスとなり、やや停滞が見られました。建設業は前期が27ポイントと大きくプラスであったことの反動と考えられます。飲食業や観光業の一部業種では依然として厳しい状況が続いています。しかし、各種制限が段階的に解除されてきてることから、来期以降のさらなる業況改善が見込まれます。

3. 中小企業診断士の一言

緊急事態宣言等が全国で一斉に解除され、2か月が経過しようとしています。日常が戻りつつある中で、経営者の方から「これまでと同じ経営では通用しない」「コロナ後の変化に対応しなければいけない」とのご意見を伺います。購買意欲の変化、感染対策の徹底、テレワークの推進、各種補助金の拡充などコロナ禍がもたらした社会変化はとて大きなものです。大きな変化であるため、具体的にどう対応すればよいか悩むケースが多々あると思います。漠然とした不安でも構いませんので商工会のセミナーや経営相談をお気軽にご活用ください

4. 主要業界のトレンド

【全体】

新型コロナウイルス感染症について、9月以降、新規感染者数が減少傾向に転じており、行動制限が段階的に緩和されています。景況は全体としては回復傾向が見られるものの、業種・業態による好不調の差が大きくなっています。自社のおかれている業種・業態の現状を把握し、今後を見通した経営に取り組むことが重要となっています。

【製造業】

回復基調の業種ですが、感染拡大前の水準まではまだ戻って来ていません。業況の回復を待つとともに、新しいビジネスチャンスの獲得を狙いましょう。具体的には、医療機器・電動車・半導体製造装置など今後成長が見込まれる分野の試作品製作など、高度な技術やノウハウを活かし開発にチャレンジしましょう。

【サービス業】

お客様に直接会って様々なサービスを提供することが困難であるため、非対面型接客への転換が求められています。フィットネス業のオンラインレッスン、飲食業のレシピ配信やテイクアウト対応などの事例があります。非対面接客のメリットとして、感染対策、時間や場所を問わずに接客ができることや、物理的にアプローチが難しかった顧客へアプローチが可能となることが挙げられます。

【小売業】

省人化・効率化を実現するため、IT化の推進が求められています。具体的には支払いのキャッシュレス化対応で、地方自治体とPayPayが企画するキャンペーンがあります。対象店舗でPayPay支払いをすると顧客へポイントが還元されるキャンペーンです。行動制限の緩和により店舗に人流が戻る中で、混雑解消や非接触などの感染症対策として、顧客はキャッシュレス化に大きくシフトしています。積極的にキャッシュレス化に対応しましょう。

【建設業】

業況が堅調に回復する中で、業務量の増加が予測されます。業務量の増加に対応するため業務の「見える化」に取り組みましょう。「見える化」とは、業務プロセスが自動的に目に飛び込んでくるようにすることです。例えば、段差のある場所に段差注意のカラーコーンを置き、転倒を防止することや、売上の増加推移をグラフで示すことなどがあります。「見える化」を推進することで労働災害の防止や従業員のモチベーションアップが見込め、生産性が向上します。

5. 小さな企業の新たな取組みのためのヒント

コロナ禍がもたらした購買行動の変化として、「外での活動よりも、家で過ごす時間を重視する変化」があります。この変化に対応するため、これまでの商品やサービスの見直しに取り組みましょう。例えば、小売業において、冷凍食品のまとめ売りや衣料下着のまとめ売りなど巣籠りに対応した大容量セット商品をラインナップに加えたり、サービス業において10分コースなど時間の短い施術コースや、カットのみや眉毛剃りのみなどシンプルなサービスを設けるなどです。これまで以上に顧客が「外での活動」を抑えられるサービスの開発に取り組んでみてはいかがでしょうか。